

島田市長 染谷絹代 様

提 言 書

令和2年9月30日

島田市議会

提 言 書

本市議会では、令和2年8月31日から9月30日までの間、令和元年度一般会計の決算に関する事項について審査を行った。第2次島田市総合計画に掲げるまちの将来像「笑顔あふれる 安心のまち 島田」の実現に向け、当決算審査の内容を踏まえ、以下のとおり提言する。

1 寺子屋事業の拡大について

はつくら寺子屋事業は、県委託事業として3年間実施され、子供の学習意欲の向上やボランティアとして参加した中高生の「学びの循環」の形成につながるなどの効果があり、保護者をはじめ市民の評価も大変高い。また、当市と同様に県委託事業として実施した他自治体において、委託事業終了後も継続して実施しており、寺子屋事業は評価が高い事業である。

このような評価を得ているが、当市において事業は継続しているものの、財源確保や人材確保の難しさの面から初倉中学校区のみの実施にとどまっている。

こうしたことから、財政支援を国・県に働きかけるとともに、学習支援員や学生ボランティアの確保に努め、また、他事業と合わせて実施することを検討するなど、全市へ事業を拡大するよう努められたい。

2 自主防災組織の支援の拡充について

近年、ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的豪雨が多発しており、河川の氾濫や土砂災害の発生など、全国的に大規模災害が多く発生している。こうした災害発生時や発生が予測される際には、地域の自主防災組織の在り方が重要であると考える。

現在、自主防災組織育成事業として補助金が交付されているが、予算額を超える申請があるため、交付額は自主防災組織ごと按分し交付決定されており、交付決定時に申請額より減額されたことを受け、やむを得ず事業自体を取り止めた自主防災組織も一部あったと聞く。

これらの状況を踏まえ、自主防災組織の育成と活動の一層の推進を図るため、自主防災組織が抱えている課題を把握し、支援を強化・充実するとともに、大規模災害を想定した防災用資機材の新たな備蓄や不足の早期解消に努められたい。

3 島田市緑茶化計画の市民意識の向上について

シティプロモーション推進事業は、島田市の魅力を市内外に発信する施策であり、他の自治体との差別化を図るためにも重要な施策であると考えている。

これまで当事業は、島田市緑茶化計画を旗印として掲げ、ブランドデザインの統一化を図り、国内や海外に向けて協働促進事業や商品開発活性化事業、広告事業等を展開してきた。

しかし、事業成果は市外への発信に偏っており、市民、市職員の意識醸成につながる発信が少ないため、市内への浸透度が低い状態となっている。その要因の一つとして、事業成果の分かりづらさがある。

今後のシティプロモーションを推進する中で、特に、市内に向けた当事業の充実を図るとともに、これまでの事業成果に基づいた計画の見える化を図り、島田市に関わる多くの人の意識醸成が高まるよう努められたい。